

肢体不自由（車いす使用者）

車いすを使用する人は、脊髄損傷や頸髄損傷による機能障害のほか、脳性まひなどにより立位の姿勢が難しく、車いすを使用している人もいます。車いすを使用する人は、下肢に機能障害のある人が多いですが、上肢にも障害のある人の中には、電動車いすを使用している場合があります。

コミュニケーションの配慮とポイント

手や指に欠損やまひがある場合は、字を書いたり手先の細かな作業が困難です。また、口や舌にまひがある人は、言葉でのコミュニケーションが難しい場合もあります。

● 階段・段差の解消

車いすを使用する人は、階段や段差があると、自力では移動が困難です。付近にスロープやエレベーターがあれば案内しますが、段差を越える方法など、車いすのサポート方法を知っておきましょう。

▶ 移動の介助をするとき

必ずフットレストに足が乗っていることを確認してください。

注意：足が床についたままで動かすと足を巻き込む危険性があります。

▶ 車いすを動かすときや方向転換するとき

事前に「動きます」「曲がります」などの声かけをしましょう。

▶ 小さな段差を越えるとき

[車いすを使用する人が自分で前輪を上げる場合]

介助者はコミュニケーションをとりながら、前輪が段差を越えたことを確認後、声をかけながら後輪が段差に沿うように後ろから押して、サポートしましょう。

[車いすを使用する人が自分で前輪を上げられない場合]

介助者は、体重をかけてグリップを下方に押し、重心が後方になるようにして前輪を上げます。グリップを持ち上げてしまうと、前方へ傾き転倒する危険があるので注意しましょう。

▶ 車いすのそばを離れるとき

必ず駐車用ブレーキをかけましょう。

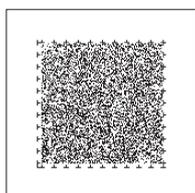
▶ スロープを下りるとき

勾配によっては車いすを使用する人は前傾するため、怖さを感じる場合があります。そのような場合は、後ろ向きにスロープを下りて安全安心に移動できるようにしましょう。



前傾姿勢で押しながら上る

後ろ向きでゆっくりと下りる



● 館内の温度に注意する

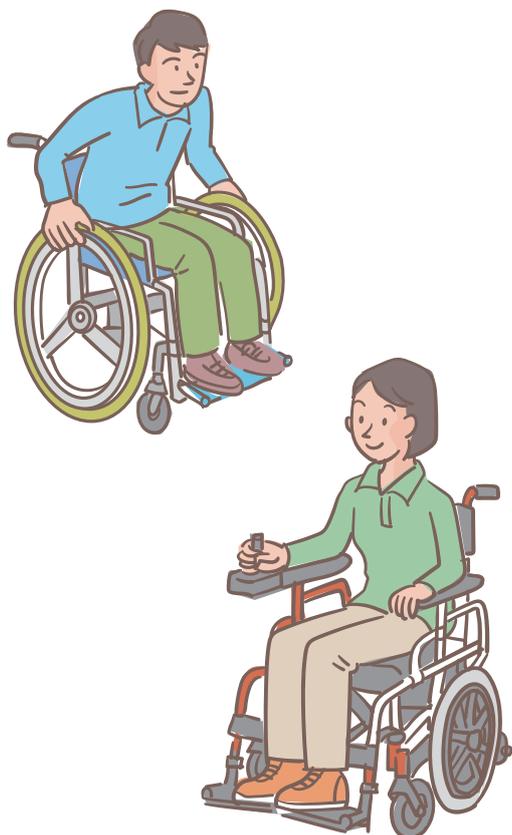
車いすを使用する人の中には、脊髄の損傷により感覚がなくなり、周囲の温度に応じた体温調節がうまくできない人がいます。特に、暑くなり過ぎないように、エアコンや扇風機を活用するなど気をつけてください。熱中症対策として、霧吹きなどを使い、ミストで体温を下げるなどの対応も効果的です。

● 相手の目線に合わせる

車いすを使用している人が立ったままの姿勢の人と話す際、車いすを使用している人は見上げる状態になります。相手の目線に合わせることを意識しながら、立ったまま話す、腰をかがめて話すなど相手の状況や話の内容に応じた配慮をしましょう。



● 車いすの動かし方を見る



車いすの駆動方法は、障害の状態により人それぞれです。両手、足で蹴る、片手・片足での操作、電動車いすで自走する人などもあります。

電動車いすを操作し始めたばかりで操作に慣れていない人もいます。操作状況を注意深く観察し、電動車いす使用者自身にも周囲の方にも危険が及ばないようにしましょう。

どのような動きで、どれくらい自分自身で動かしているかを観察しておくことで、どのようなスポーツを紹介できるのか、ヒントを得ることができます。その中でできることを見つけ出して、ルールやフォームを工夫していくと良いでしょう。

